

2023年9月8日

通貨ニュース

マレーシア:9月金融政策会合～政策金利は年内まで据え置きの可能性も

マレーシア中銀(BNM)は7日の金融政策委員会(MPC)で、政策金利を従来の3.00%に据え置いた。政策金利の現状維持は前回7月会合に続く決定となった(図表1)。ブルームバーグの事前予想でも現状維持の予想が有力であった。

声明文における世界経済に対する見解は前回会合の内容をほぼ踏襲した内容となった。世界的な金融引き締め下において、高インフレの緩和が見られる一方で、世界貿易取引量の縮小をはじめ外需の減速に起因した成長率の減速が確認されているとした。今後の景気下振れリスクとして、インフレ再加速や地政学リスクの高まりを挙げている。

マレーシア経済に関しても、概ね同様の見方を示している。4～6月期実質GDP成長率は前年同期比+2.9%と市場予想の同+3.3%を下回り、1～3月期の同+5.6%から減速した(図表2)。成長率減速の要因は外需の悪化と見られ、直近4か月の貿易実績を見ると、うち3か月前年比2桁台のマイナスを記録している(図表3)。品目別の内訳を見ると資源・商品及びその加工材の失速も目立って来ており、電子製品輸出に次いで外需減速のあおりを受ける格好となっている(図表4)。かかる動きは23年下半年にかけて継続すると予想されている。

物価動向に関して、7月消費者物価指数(CPI)は前年比+2.0%、生鮮食品と政府による価格統制品を除くコアベースでは同+2.8%となった(図表5)。インフレの中心は食料品・飲料価格となっており、サービス価格の高止まりも懸念されてきたが、内需の減速と付随するかたちで、6月の同+3.2%から同+2.9%へ減速した。総合ベースでのインフレは22年4月以来の低水準を記録しており、BNMのインフレへの警戒は引き続き弱まっている印象だ。

かかる中、BNMの政策主眼は景気支援に向きつつある状況となっており、現在の政策金利の水準は景気支援とインフレ抑制双方の観点から適切である旨の記載もあり、年内まで政策金利が据え置かれるといった見方も強まっている。

一方で、突発的な利上げの可能性があるとすれば足許のMYR安を受けた対応となるだろう。MYRは本稿作成時点では4.67台での取引となっており、年初来安値の4.69台に接近しつつある(図表6)。もっとも、マレーシアの個別要因で売られたのではなく、欧州や中国における景気失速懸念も相まって、ファンダメンタルズが比較的底堅いドルが選好されている印象が強い。現にドルインデックスは約半年ぶりの高水準を記録しており、9月FOMCにおいても大きなサプライズなくタカ派継続が見込まれる中、ドルが大崩れするとは考えにくい。むしろ、中国の不動産市場をはじめ世界経済の減速懸念の更なる高まりを受けてリスク心理の悪化に振られる可能性に警戒したい。当面は外部要因に揺れる相場環境となりそうだ。

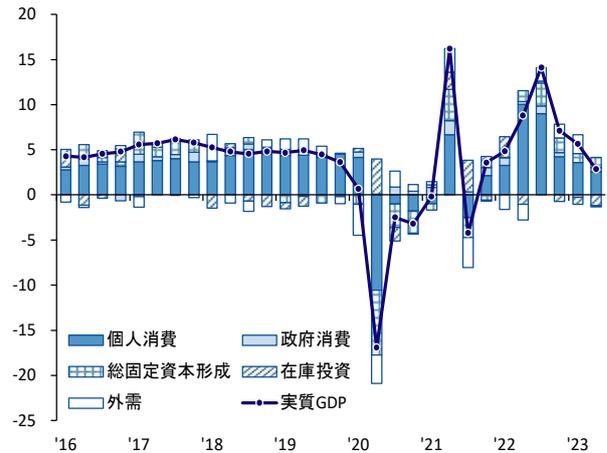
金融市場部
マーケット・エコノミスト
堀 堯大
03-3242-7065
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

図表 1: 政策金利と消費者物価指数(CPI)



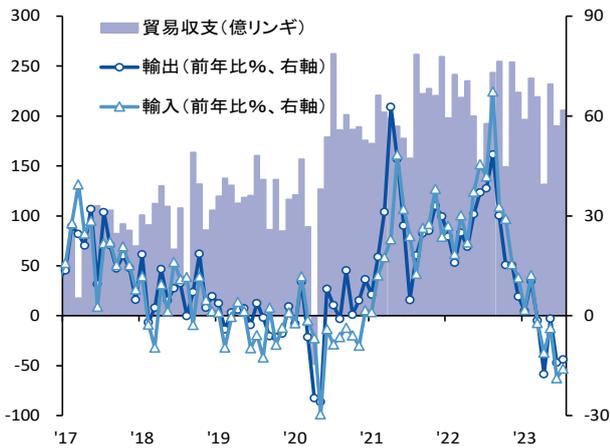
出所: マレーシア中央銀行、マレーシア統計局、CEIC、ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 2: 実質 GDP 成長率の推移 (前年比%、%ポイント)



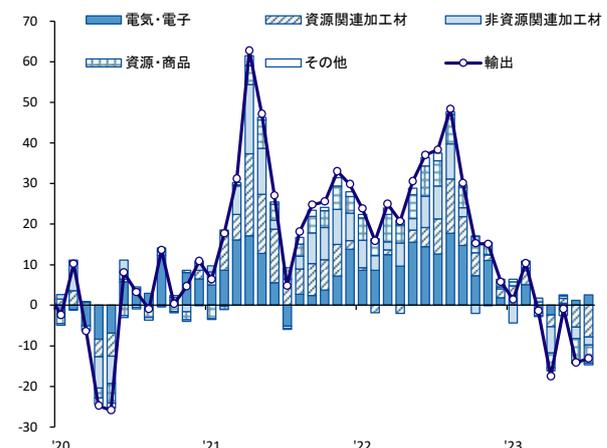
出所: CEIC、みずほ銀行

図表 3: 貿易収支の動向



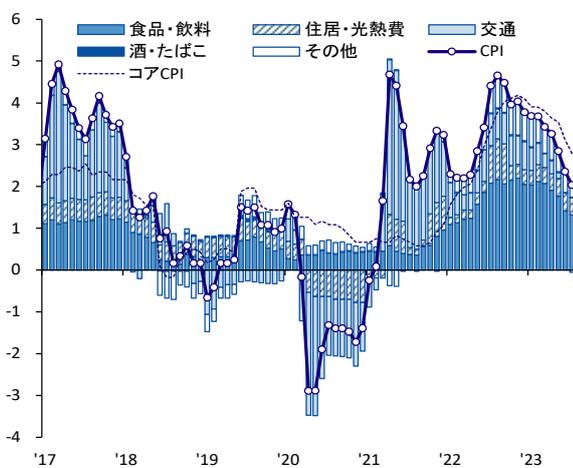
出所: マレーシア統計局、CEIC、みずほ銀行

図表 4: 品目別輸出実績 (前年比%)



出所: CEIC、みずほ銀行

図表 5: CPI の動向 (前年比%、%ポイント)



出所: CEIC、みずほ銀行

図表 6: MYR の動向



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。